



④ 山形県新築の図（長谷川竹葉筆・山形美術館所蔵）



① 昭和初期の県庁周辺

「山形県新築の図」に見える建物
※（ ）は平成25年現在の建物

- ① 初代山形県庁（文翔館）
- ② 織文社（旧山形県会議事堂）
- ③ 山形県勸業製糸場（山形地方裁判所）
- ④ 山形県勸業博物館（山形市役所）
- ⑤ 南村山郡役所（山形市役所）
- ⑥ 湯殿山神社（山形市役所）
- ⑦ 器機ノ湯（山形市役所）
- ⑧ 活版所（民間ビル）
- ⑨ 山形警察署（民間ビル）
- ⑩ 南山小学校（やまぎんホール）
- ⑪ 山形県師範学校（山形県 J A ・山形商工会議所）
- ⑫ 山形県警察本署（山形銀行本店）
- ⑬ 済生館（山形市郷土館-霞城公園に移築・復元）
- ⑭ 千歳園（山形東高周辺）
- ⑮ 三島神社（三島神社）
- ⑯ 山形県水力機織場（遊学館西）
- ⑰ 馬見ヶ崎湖畔（教育資料館）
- ⑱ 国分寺薬師堂（国分寺薬師堂）

当時を物語るもの



① 旧済生館本館



⑭ 千歳園の碑（山形東高玄関前）



「山形県新築之図」を読む

明治



④ 初代県令
三島通庸

初代県令である三島通庸は、山形の街を近代的なものにしようと考え、県庁をはじめとするいろんな建物を造って新しい街づくりをはじめました。

山形県新築の図を読みながら、明治にできた街を探検してみましょう。

三島通庸の 新しい街づくり

上記の絵は、1881（明治14）年に明治天皇の山形県巡礼幸記念に発行された長谷川竹葉筆「山形県新築の図」です。1876（明治9）年に鶴岡・山形・置賜の3県が合併して山形県となると、明治維新三傑と言われた大久保利通の信頼の厚い、薩摩藩（鹿児島県）出身の三島通庸が初代県令に就任しました。三島県令は、明治の新しい時代にふさわしい県都山形の街づくりを積極的に行いました。その街づくりを「山形県新築の図」で見ていくことにしましょう。

まず、左上の大きな建物が**初代県庁（A）**です。現在の文翔館の場所です。その後すぐに、隣の**織文社（B）**の場所に山形県議会議事堂が建てられました（明治16年）。

（C）の所には**山形県勸業製糸場**が建てられましたが、明治22年に山形県地方裁判所が建ち、現在に至っています。その隣は南村山郡役

所で、現在は山形市役所になっています。道路を挟んで向かい側には、**南山小学校（J）**と**山形県師範学校（K）**とその附属小学校が見えます。南山小学校は尋常小学校（山形市立第一小学校）と統合し、現在地へ新築移転しました。南山小学校の跡地にはその後山形県立図書館が建てられ、昭和37年に山形県県民会館と併設新築しました。そして、県立図書館は平成2年に複合施設（遊学館）として現在地に開館しました。

右上に大きな公園のような場所がありますが、ここは**農業試験場「千歳園」（N）**で、新農業を推進した場所です。その後、県立中学校が立てられ、現在は県立山形東高等学校となっています。公園機能は千歳公園（現薬師公園）へ移転しました。

「山形県新築の図」に描かれている場所は、昔、馬見ヶ崎川が流れていました。江戸時代の初期に山形城主鳥居忠政が川の流れを変えた後も川原のままで、「万日河原」と呼ばれていました。三島県令は、このような場所を埋め立て、県都山形を近代的な街にしました。

三二知識 10

山形県勸業製糸工場

近代化の先駆けとして産業革命の中心を担うことになったのが、生糸や繊維などの繊維工業でした。

政府がヨーロッパからの製糸技術の導入を図る中、県内でも1877（明治10）年に三島県令が県勸業製糸工場を設立、技術の伝習に努めました。



④ 県勸業製糸工場の外観



千歳園(明治12年頃)



千歳園で試験栽培された果物



明治初期の済生館病院

ミニ知識 11

青い目のお医者さん ～済生館と外国人教師ローレツ～

明治13年9月のある日、山形県令三島通庸から済生館病院の医者と医学寮の教頭先生に依頼されたローレツが、狛犬2頭引き連れて山形の町に入りました。街道沿いの人々は、ローレツを見て文明開化の世の中を実感しました。

医者としての技術にすぐれ、人柄もよいローレツのことはたちまち「青い目のお医者さん」として評判になり、済生館は診察を受けようとする人で連日いっぱいになり、ついに新聞に、「本館には、患者があふれています。また、病院は大変狭いので、これから本館に来る人は、二、三日前に申し出て下さい。」という広告が出ました。

ローレツは、明治15年に故郷ウィーンに帰り、2年後、37歳の若さで亡くなりました。



三島通庸の殖産興業

【千歳園の設置とサクランボ王国へ】

当時の緑町には民家らしいものがなく、旧県庁付近には製糸工場をつくりました。荒地六万坪に四木三草及び和洋種の果樹園をつくり、新農業の振興につとめるため、「千歳園」と命名しました。また、産業の近代化を目指すために、県の勸業試験場を北東側に設けて、山形で見られない果樹・野菜を栽培しました。なかでも、横浜でアメリカから輸入したサクランボを三島県令が千歳園と霞城公園東の桜小路に植えたと言われています。サクランボは、寒河江市、東根市などでも多く栽培され、今日のサクランボ王国をつくり上げました。

【済生館と医療・医学の発展】

三島県令は、県民の医療のためにたくさんの予算をかけて済生館をつくり、また、医者を育てるための学校、医学寮もつくりました。当時の東北地方では初のことでした。

また、ウィーン出身のローレツを招いたことで、医療と医学が発展しました。ローレツは、済生館病院で患者の診察にあたると同時に、医学校で生徒に西洋医学を教えました。

三島県令は、県都山形の街づくりとともに、土木・産業・医学・教育の発展に大きな功績を残しました。

【山形県師範学校の建設と教育の発展】

山形県師範学校は、1878(明治11)年9月に旅籠町に校舎を新築し、入学生135名で開校しました。明治5年の明治新政府による学制の発布により、文部省は県立師範学校の設置を奨励しましたが、この方針に初代県令三島通庸はいち早く対応しました。この師範学校を巣立ち、明治からの山形の教育を支え県外でも活躍した卒業生たちこそ、教育県山形の名を高めた人たちであると言えます。

山形の町が消えた 2つの大火

三島県令がつくった多くの建物は明治27年と44年の2つの大火で焼失してしまい、当時の建物として現在残っているのは、旧済生館本館と旧山形県師範学校本館のみです。

山形市南大火は、1894(明治27)年5月26日、蠟燭町を火元とし、強風によって火の手は四方に広がり、約10時間燃え続け、十日町・八日町・三日町・小姓町など、市街南部を中心に、17ヶ所に及ぶものでした。焼失したのは本家数だけで1,608軒を数えました。

山形市北大火は、1911(明治44)年、山形恒例の薬師祭の5月8日に発生し、七日町・旅籠町・六日町など6町にわたって1,300戸を焼いただけでなく、県庁・警察署・市役所・図書館・山形中学校など、公共建築を焼き尽くしました。



山形県師範学校(明治34年～現教育資料館)



現在の教育資料館

教育資料館の中の様子



江戸時代の様子



昭和初期の様子

旧山形県師範学校本館の建物は、1980(昭和55)年山形県立博物館教育資料館として開館しました。展示室には師範学校当時の教室が活用され、江戸時代から現代にかけての教育に関する資料(教科書・教材・教室の模型等)が展示公開されています。



市北大火(明治44年)

ミニ知識 12

三島通庸と トンネル工事

三島県令の業績としてのトンネル工事は有名です。山形県から各県に通じる栗子峠や雄勝峠、そして関山峠にトンネルを造りました。

特に、栗子の山は岩がとても硬く、掘り抜くにはとても大変でした。そこで、三島県令は、当時アメリカでも3台しかなかったトンネルを掘る機械を、高い金を出して買いました。もちろん、日本では初めて使われた機械です。

明治13年10月19日の午前1時の真夜中、「トンネルが抜けたぞ」という知らせが入りました。三島県令はすぐに飛び起き、現場に駆けつけ、作業していた人たちと涙を流して喜びました。

